

平成 30年度香美市教育委員会
施策に関する点検・評価報告書

令和 2 年 3 月

香美市教育委員会

点検及び評価の概要

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正に於いて、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

この改正は、効果的な教育行政を推進し、住民の皆様への説明責任を果たしていくことを目的としたものであり、具体的には、教育委員会で、自ら設定した教育に関する基本的な方針や地域の課題等に応じて、教育行政がどのように執行されているのかを点検・評価することになります。

香美市教育委員会は、平成26年度の教育行政方針を基に、「心豊かな人づくり、人権尊重を核としたまちづくり」を推進しています。市民一人一人が、国際化、情報化、高齢化等の社会の変化に対応し得る能力を身につけ、心身ともに健康で調和のとれた人間形成を自ら成し遂げ、自己実現が図れるように、生涯学習の推進体制や環境を整備し、「学びをたのしむ人々が育つ風土づくり」に努めてきました。

このたび、平成25年度の取り組みに対し、自己点検・評価を行うとともに、評価内容の客観性を確保するため、学識経験を有する点検・評価委員から、今後の教育行政の推進についての意見・提言を受けました。これらを「平成26年度香美市教育委員会施策に関する点検・評価報告書」として公表いたします。

教育委員会の点検・評価制度の実施により、教育委員会自らがその成果や課題を確認することで、今後の施策改善に反映させるとともに、目指すべき方向についてより具体的なそして効果的な教育行政の推進を図ることとします。

点検及び評価の構成

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、市教育委員会では、効果的な教育行政を推進し、市民への説明責任を果たすことができるよう市教育委員会が行う事務の管理・執行状況について点検・評価を実施し、その結果をとりまとめました。

(評価の判断基準)

評 価	判 断 基 準
5	想定を大きく上回る成果が得られた。
4	想定以上に成果が得られた。
3	想定どおりの成果が得られた。
2	成果が得られたが、改善の必要がある。
1	成果が得られず、見直しの必要がある。

外部からいただいたご意見

点検・評価の客観性を確保するために、学識経験を有する外部の方を点検・評価委員として、ご意見、ご助言をいただきます。

氏 名	所 属
福石 賢一	高知工科大学 教職課程准教授

結果の公表

- (1) 点検・評価の結果については、議会へ提出します。
- (2) 市民には、ホームページにより公開します。

H30 年度 外部評価

本報告は、地教行法改正に伴い平成 20 年度より開始された香美市における教育委員会の施策に対する評価の 11 回目の報告となる。また本評価の対象である平成 30 年度は平成 26 年度を初年度とする香美市教育振興基本計画・前期の最終年度に当たり、本報告における評価は同計画（前期・後期）に係る取組・事業の中間地点における進捗確認の意味も有している。本評価に当たっては、これまでと同様、市教育委員会から各種資料を提供頂くと共に、同委員会事務局担当者に対して聞き取り調査を実施させて頂いた。このことに対しまずはこの場を借りて関係各位に謝意を申し上げる。

さて本評価では上に述べた香美市の教育振興基本計画に基づいて策定された 61 の取組・事業を主たる対象として評価を行っている（本年度の取組・事業数は見直しにより昨年度の 62 より 1 減となっている）。市教育委員会は、市の教育振興基本計画に基づき、その基本理念である「郷土を愛し、未来を拓く人づくり」の下、「1. 主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます」、「2. 市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます」、「3. 夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します」の 3 つの視点から取組・事業を計画、実施している。具体的には、視点 1 については学力向上、幼小連携、いじめ・不登校対策、教員・管理職研修等に関する 26 事業、視点 2 については地域での体験活動、食育、子育て支援、地域連携等に関する 21 事業、視点 3 については ICT 機器整備、環境教育、高知工科大との連携、生涯学習等に関する 14 事業が配当され、総計 61 の取組・事業から構成されている。

これらの取組・事業については各取組・事業毎に、まず教育委員会が内部評価を行いそれぞれに 1～5 の評価点を付すこととなっている（評価の基準は上記の通り）。今年度の評価点の分布は 5 点が 0 事業（昨年度 0 事業。以下同様）、4 点が 19 事業（22 事業）、3 点が 38 事業（38 事業）、2 点が 1 事業（2 事業）、1 点が 3 事業（0 事業）で、61 事業中 57 事業（62 事業中 60 事業）、割合にして 93%（97%）の取組・事業に 3 点（＝想定どおりの成果が得られた）以上の評価点が与えられている。全体の平均は 3.2 点（3.4 点）で、視点毎の平均はそれぞれ視点 1 が 3.1 点（3.3 点）、視点 2 が 3.5 点（3.5 点）、視点 3 が 3.1 点（3.1 点）となっている。各種資料並びに聞き取り調査をふまえて外部評価者が行った評価においては 61 事業中 58 事業（95%）の取組・事業が 3 点以上であると判断され、平均点は 3.2 点であった。以上から、香美市の教育振興基本計画に基づく教育委員会の取組・事業は総体としてここまでおおむね計画通りに実施され、かつそのことによって一定の成果を上げてきたと判断する。

そのうえで個々の取組・事業に目を向けると、その成果のうち今年度特に注目すべきものとして子どもたちの学力の向上を挙げることができる。平成 28 年度の全国学力・学習状況調査では小中学校を通じ小学校の国語 A 問題及び算数 A 問題以外は全国平均を下回っており、中学校数学においては A 問題、B 問題共に全国平均を大きく下回る状況であった。しかし平成 30 年度の調査では小中学校の国語、算数・数学の A 問題、B 問題の全てで全国平均

を上回った。このことは各種の取組・事業はもとより、先生方が分かりやすい授業づくりに取り組んで来られた（学校評価アンケートにおいて児童・生徒の94%、保護者の91%が「授業が分かりやすい」と回答）結果であり、さらに自尊感情の向上（全国学力・学習状況調査において小学生の84.7%（H28 77.3%）、中学生の84.9%（同 69.2%）が「自分にはよいところがある」と回答）はこの成果の原因であり結果であると考えられる。またこれまでも言及してきたことだが、学力の向上に加え、地域との協働・連携も着実に進められてきた。今年度は初の試みとして「よってたかって生涯学習フォーラム」が開催されたが、こうしたイベントのみならず普段の教育活動においても、物部川や龍河洞等地域の教育資源を活用した学習、学校の地域行事への参加（全小中学校で実施）、キャリアチャレンジデイや音楽会の高知工科大での開催等、学校を飛び出して地域で学ぶ多様な活動が進められており、同時に多くの地域住民の方々が学校に足を運んでいただくようになってきている（H29.9-H30.9の期間における学校行事・学習支援等への参加者のべ6,667人。H29年度4,400人）。これらのことは子どもたちの郷土への愛着の高さ（全国学力・学習状況調査において小学生の89.6%、中学生の80%が「自分の住んでいるところが好きだ」と回答。H26年度調査では小中合わせて56.1%）につながっていると思われる。この他、学校における電子機器や図書システム、放課後児童クラブ施設等の整備が計画的に進められ、さらに学校教育以外でも、子育て広場や一時預かり等の拡充、スポーツ施設や図書館等の生涯学習施設の整備も着実に進められてきている。

しかしいっぽうで課題も残されている。これもこれまでも言及してきたことではあるが、その主要なものは児童生徒の行動や生活に関わるものである。市の暴力行為発生件数は漸減傾向にあるものの、いじめ認知件数は（国における判定基準の変更はあったものの）全国の傾向と同様に大幅に増加しており、さらに不登校については高知県における出現率が全国上位にある中、本市における出現率はその県平均を上回る状況にある。また児童生徒、とりわけ中学生の生活習慣について、家庭で2時間以上学習する生徒の割合が22.9%（H29 28.2%）、テレビやスマホの使用が2時間以内の生徒の割合が46.4%（同 60.4%）など将来の学力への影響が懸念されるような状況がみられる。これに加え、中学生においてさらに体力並びに運動時間が全国平均を下回っていることや朝ご飯を食べない生徒が多いこと（全生徒の1/3以上）等、あらゆる学びや育ちの基盤となる生活習慣について改善が必要と思われる状況が引き続き見られる。この他の点では、人員配置関係で目標未達成の項目について達成に向けて努力が求められる。また教育施策に対する市民の認知が十分でないように思われる（アンケートで「香美市は教育に力を入れている」と回答した市民は33%）ことから、「社会に開かれた教育課程」の意味からも、市民の意見をしっかりと汲み取る努力を継続すると同時に、地域や保護者への広報においてもさらなる努力と工夫が求められているように感じる。

なお評価の様式や構造についてはこれまで年ごとに改善が積み重ねられてきた。しかし、この点についてはいまだ改善の余地が残されているように思われる。昨年度指摘させていただいた点と重複する部分も多いが、以下のような項目について事業内容や到達目標の再検討が必要であると感じている：

- ・取組・事業名と到達目標の対応関係が曖昧であるもの

- ・取組・事業内容と到達目標の関係に無理があると思われるもの
 - ・1つの取組・事業とするにはあまりにも多量かつ多様な内容を含むもの
 - ・複数の取組・事業で同一の目標が設定されているために個々の取組・事業において何を評価対象とすべきか不明瞭となっているもの
 - ・外部機関が実施するアンケートにおける調査項目の変更や国レベルでの基準の変更（一定の観察期間をおいて判断するようになったもの等）が生じると評価時点で評価に必要な情報を得ることができなくなり評価が困難となるもの（代替的な評価手段の検討等が必要）
 - ・事業を実施すること自体を目標とするもの（これと事業を実施した結果として期待される子どもたちの変化等を目標とするものが混在し、目標の質にばらつきが見られる）
- これらについては5年や10年の区切りにこだわらずに適宜見直しを行っていくのが望ましいと思われる。

なお備忘として本年も、過去の報告書において年齢・経験年数を考慮した各学校への教職員の適正配置の必要性について指摘されてきたことを最後に記しておく。

<視点>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

(1) きめ細やかな教育・保育の推進と体制整備

取組・事業名	内部評価	外部評価
香美市0歳から15歳までの「子どもの育ちの指標」を明らかにし、発達段階に応じた適切な教育の推進	3	3
保小連携・小小連携・小中連携教育	3	3
アプローチカリキュラム作成・実施	3	3
スタートカリキュラム実施(小学校)	4	4
インクルーシブ教育の推進 ①支援体制の確立	4	4
インクルーシブ教育の推進 ②高知県立山田養護学校との連携	4	4
インクルーシブ教育の推進 ③関係各機関と連携した研修と支援	4	4
インクルーシブ教育の推進 ④不登校対策	1	2
インクルーシブ教育の推進 ⑤いじめ対策・問題行動対策	1	2

(3) たくましく生きる人間力を培う教育の推進

取組・事業名	内部評価	外部評価
学力向上プロジェクト事業	3	3
中学校学力向上推進	3	3
番美市チャレンジ塾	3	3
道徳教育の推進	3	3
人権教育の推進	3	3
図書館教育の推進	3	3
体力の向上	3	3
健康な生活の推進	3	3
キャリア教育の推進	3	3

(2) 子育て支援と親支援の推進

取組・事業名	内部評価	外部評価
香美市教育の日 地域の人々を学校へ	4	4
子育て専門家支援 家庭支援推進事業	3	3
子育てひろば	3	3
子育てに関する 相談・援助	4	4
地域の子育て関連情報提供	3	3
子育てに関する講習会	3	3
子育てサークル支援	4	4
一時預かり	4	4
マタニティママのつどい	4	4
子育てサポート体験	4	3

<視点>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

(1) 次世代を見通した教育の環境整備と実践

取組・事業名	内部評価	外部評価
ICT機器整備	4	4
情報モラル教育の推進	3	3
情報リテラシー教育の推進	3	3
環境教育 エネルギー教育の推進	3	3
学校図書館システム化の推進	3	3
外国語(英語)教育の推進	4	4